

## KANSAI Timeline

奈良県立医科大学  
MBT研究所

## 心拍データ蓄積、病気予防

奈良県立医科大学MBT研究所は、医学に基づいて住民の健康増進を目指すまちづくりを提唱している。住民の心拍数などの生体情報や日々の電力使用量のデータを分析することで、病気の予防や高齢者の見守りにつなげる。独居老人の安否確認作業の効率化など自治体にとっても利点がある。

「MBT」はMedicine-based Townの略称で医学を基礎とするまちづくりという意味だ。「社会実装を見据えているのが特徴だ」。

中心的な役割を担う梅田智広教授はこう説明する。同様の取り組みはよく見受けられるが、実証実験で終了してしまい、普及に至らないケースも多い。

MBT研究所はデータを測定する機器のコストを抑え、導入しやすくすることで、この問題を解決する。心拍数や血中の酸素濃度などを5分に1度計測できる時計型の機器はオリジナルで、通常なら数万円するところを8千円に抑えた。電力の使用状況を観察する機

器は既存のメーターに後付けが可能で、15分ほどで設置できる。

生体情報は参加人数が増えるほど、取得年数が長くなるほど「認知症などになる人の傾向が分かる。予防に向けた生活改善を提案できる」と梅田教授は話す。電力使用の分析では、家でテレビを見ているか掃除をしているのか類推できる。町職員が独居老人の家を巡回することなく安否確認ができる。北海道沼田町などで実証を進めている。(新井重徳)



プロジェクトの担当者④の説明を聞く住民(北海道沼田町)

キャンパス  
探訪